阪神大震災

－透析患者の災害後の状況と経過－

坂井瑠実

なぜか当院では、日頃から、それほど数が多いという訳ではないのに、透析患者の正確な現在数をつかむのが難しい。この度は一層難しく、転入、転出が激しいというのも理由の一つではあるが、すぐ近くにある分院の住吉川クリニックの透析患者や、CAPD患者、入院透析者をカウントに入れる入れないで、数値が異なり、まちまちで、恥ずかしい思いをしている。半年たって院内も少し落ち着き、冷静に出入りをまとめることが出来たので報告させていただく。震災のため廃院(西区、西神南に移転計画中）になった住吉川クリニックの患者(55名）も加えた、すべての透析患者(CAPD を含む)329名のその後の状況と経過ということでお許しをいただきたい。

Ⅰ．透析患者の推移

震災前患者数(図１）

HD　299人(入院21、住吉川クリニック55を含む)

CAPD　30(入院４を含む)

HDの人数には、除水困難でHD施行中のCAPD患者２人を含む。この２人は、震災直後自分でCAPDに切り替えた。MRSA感染症で入院隔離中のHDの患者１人は、２日後院内でCAPDに変更。圧死の３名を除くと、震災直後HD293 、CAPD33となる。

６ヵ月後(７月17日現在）患者数(図２）

HD　227人

CAPD　23

(死亡　20)

(転院　60)

76％の帰院率であるが、新規導入、転入を含みHD251 、CAPD24が現在数である。

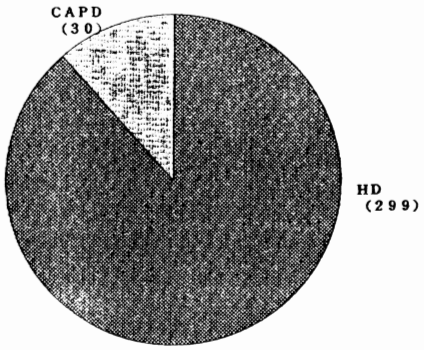

図１　震災前患者数

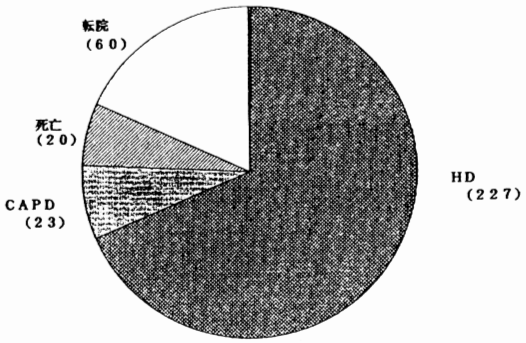

図２　６カ月後患者数

Ⅱ．死亡20人の死亡時期と死因

死亡時期

当日の死亡	３人
その後の１ヵ月	5
３ヵ月	7
６ヵ月	5

住吉川病院　院長
兵庫県透析医会副会長
日本透析医会広報委員会委員

死因(図３)

圧死	３人
脳出血	4
消化管出血	1
頓死	2
肺炎、感染症	5
事故、行方不明	2
不明	1
その他	2

震災前より入院していた４人(MRSA 感染症、大腸癌の肝臓転移等) は別として、当日朝の圧死は勿論のこと、精神的な混乱の中、わずかな隙に避難所からいなくなり、パトカーの必死の捜索にもかかわらず、埠頭で見つけられた時には既に手遅れだった放浪癖の男性、普段なら死ぬはずのない若い人の突然の脳出血、消化管出血、高カリウム血症と思えない頓死(自宅、仮設住宅で死亡していた)、インフルエンザ肺炎、敗血症etc。６ヵ月を過ぎた今でもこの突然の死亡は続いていて、その大半は震災死の認定を受けている(避難した島根県で、不注意から全身に火傷を負って亡くなった男性と、避難先の病院でなくなった女性の認定は不明)。

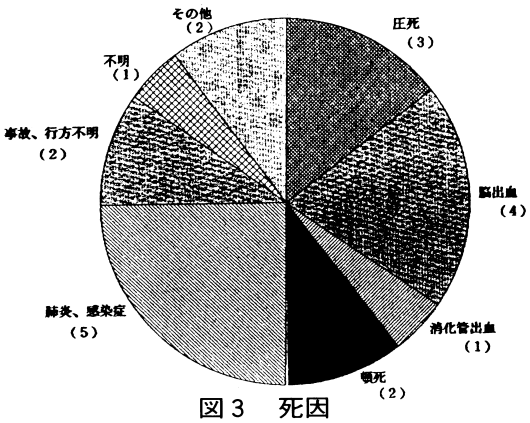

図３　死因

Ⅲ．60人の転院理由(図４)

転居	23人(県外11人)
転勤	2
通院困難	22
他院入院	12
その他	1

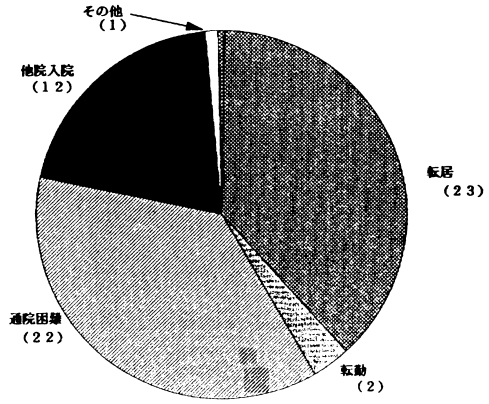

図４　転院理由

Ⅳ．家屋の損壊状況と６ヵ月後の在院透析患者の住居の状況(HD)

家屋の損壊状況(図５)

全壊	64人
半壊	77
一部損壊、ほぼ正常	125
不明	33

６ヵ月後の住吉川病院の透析患者の住居の状況(図６)

元の住居に住んでいる	143人
転宅した	14
親戚、知人宅にいる	9
仮設住宅に住んでいる	31
入院中	14
不明	16

40人がまだ仮の住居であり、仮設住宅の入居は、障害者、高齢者優先であったため、現時点で仮設に入れずやむなく入院となっているのは１人のみである。CAPDは、通院困難で導入した人が多かったためか、被災者も比較的少なかったし、月1～2度の通院ではHDほど深刻な状況ではなかったように思うので、HDのみとした。

Ⅴ．通院時間(HD)

震災前は、大半が通院は１時間以内であったが、以前と比べて長くなったと答えている人が82人、１時間以上かかると答えている人が36人、道路の混み具合で通院時間が予測できないし、２時間以上もかかる場合もあると嘆いている人も少なくない。阪神高速の復旧が３年先とか、まだまだ透析患者の通院困難は解消されそうになく、慣れた所のほうが良いと、いったん帰って来た患者も、この道路事情の悪さにやむなく転院となるケースも多い。

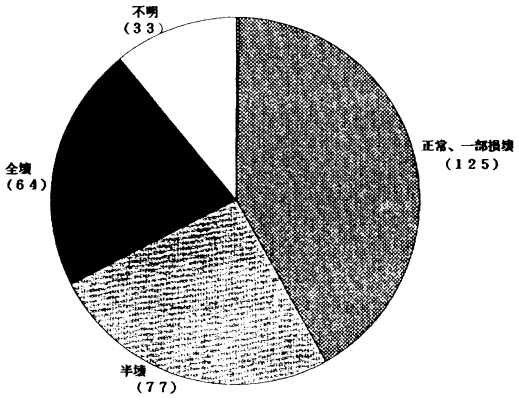

図５　家屋損壊状況

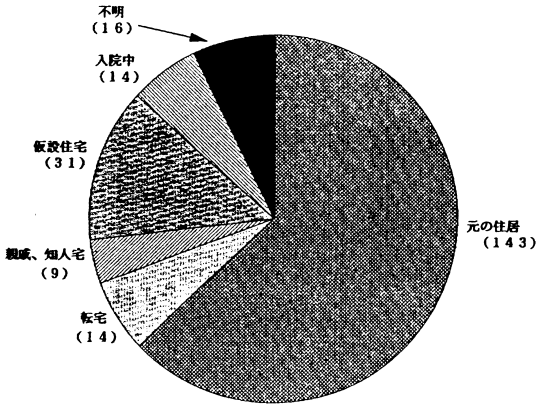

図６　６カ月後の透析患者の住居

Ⅵ．現在一番困っていることは？

体調不良	31人
住宅問題	8
通院困難	8
仕事、お金が無い	6
家族の事	4
その他	3

Ⅶ．医学的データ、震災前後のデータの比較(表)

震災前、１ヵ月後、５ヵ月後のデーターのそろっている144名の血液透析患者の検査値を比較した。患者個々のファクターを加味したデータの解析は次に送るとして、食事に関連する項目に有意差が出ているように思われる。緊急透析がやむを得なかった１ヵ月後でヘマトクリットが有意に低下しているのは、 Epo使用と関連があるようだ。

表　震災前後のデータ比較表

項　目	震災前	１カ月後	５カ月後
ＴＰ	6.70±0.468	6.57±0.458	6.61±0.464
		P<0.05	
	P<0.05		
ＢＵＮ	80.1±13.43	79.2±13.69	81.3±12.99
		ＮＳ	
	ＮＳ		
ＣＲＥ	12.63±2.636	12.53±2.782	13.01±2.668
		ＮＳ	
	P<0.05		
Ｋ	5.22±0.735	5.15±0.782	5.11±0.726
		ＮＳ	
	P<0.05		
Ｃａ	9.310±0.635	9.120±0.557	9.275±0.624
		P<0.05	
	ＮＳ		
ＩＰ	6.38±1.393	6.60±1.730	6.70±1.561
		ＮＳ	
	P<0.05		
Ｈｃｔ	30.30±4.231	27.78±4.216	30.60±3.581
		P<0.05	
	ＮＳ		

(検定は paired t test で実施)

阪神大震災から半年、復興が始まっての道路の混雑は一層ひどく、ビルの取り壊しの騒音と粉塵、わずかな空き地にもビッシリと立ち並ぶ仮設住宅群、この猛暑。多くの患者がイライラ、不眠、体調の不良を訴え、経済的不安におののいている。この阪神大震災が被災地の透析患者に与えた精神的、肉体的、経済的ダメージは計り知れないし、今後もまだまだ影響は免れ得ないと思われる。当病院の透析患者が元気を取り戻すのはいつの日かと気が重く、それでも何とか少しでもよい医療が提供できるよう努力したいと焦る毎日である。

被災地のど真ん中の透析施設の経過報告にしては、舌足らずのことばかりで、集中力を欠いた要領を得ないものになってしまったことを、おわび致します。元気になったと自負していた透析患者がこのように弱者であるとは非常に衝撃的であった。